



# かたの 寺社巡り

ノルディックで  
指定文化財を歩く

— 2 —



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を7月・11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる指定文化財について、連載しています。

今月は薬師寺と、市指定文化財の薬師如来立像、千体仏を紹介します。

問い合わせ 社会教育課 (TEL 892・7721)

## 薬師寺

薬師寺は、山号を「瑠璃光山」といい、江戸時代は大念仏宗でしたが、現在は浄土宗の寺院です。創建時期は定かではありませんが、享和3年(1803年)「星田村明細書」の記述や境内の石仏の刻銘などから、少なくとも17世紀以前であると考えられます。

江戸時代以来、薬師寺は短期間で住職が交代することがしばしばあり、無住となることもありました。それでも廃寺とならなかったのは、近隣にある同じ宗派の慈光寺や光林寺から協力を得られたことや、星田の人々の信仰と努力があつたことなのでしょう。

現在、薬師寺の管理は昭和59年(1984年)に結成された「星田薬師如来立像等保存会」が行っています。



## 市指定文化財

### 薬師如来立像

平成2年に市指定文化財として登録された薬師如来立像

は、像高約158センチの等身大の仏像です。金箔の鮮やかな色が全身に残っており、厨子(仏像を安置する仏具)に安置されています。

玉眼(仏像などの木彫像に水晶製の目をはめ込む技法)が用いられ、両足をそろえて台座に立ち、右手には薬壺を乗せています。作風から、室町時代の終わりごろの作であると推定されています。



## 市指定文化財

### 千体仏

薬師寺の千体仏は、室町時代ごろに星田の有力者が願主となり、同一人か数人の作者により作られたと考えられています。5つの箱に分納された671体が残存しており、平成2年に市指定文化財として登録されました。

亡くなった人の冥福を祈って作られたものであると推測されており、当時の交野の信仰を今に伝える貴重な文化財といえます。



## 豆知識

### 今はなき梵鐘

明和5年(1768年)、星田村の和久田助重郎が薬師寺に梵鐘を寄進しました。村人はこの梵鐘を「無常鐘」と呼び、村内に葬式野辺送りがあったときに、鐘をついて知らせたといいます。

この無常鐘は、昭和19年(1944年)に戦時下の金属回収のために供出されてしまい、現存しません。

